

わこの朗読会@まほろば

生命の始まりから 浄化の日まで

ホピ族の予言とメッセージの世界へ。
地球で生きるとは？

ホピ^o 物語 朗読会

in
まほろば
無限心

地球で生きる人間への力強いメッセージ

この本を初めて読んだとき、胸がわしづかみにされたような強烈なメッセージがいくつも飛び込んできました。「最後の浄化の日の始まりを見るまでは生きるだろう」と父に言われたダン・カチョンバ氏。昨今の自然の猛威やそれが引き金となって次々に起きる大災害を見るたび、私はこの浄化の日が始まっているような気がしてなりません。

107才まで生きた氏が、亡くなる2年前に録音し文字化した貴重なメッセージ。地球で生きる人間とはどういうものか？生きるとはどういうことか？を深く、力強く、真っ直ぐ語りかけてきます。今こそ、この物語が私たちの生きるヒントになると感じています。

生命の始まりから
浄化の日まで

FROM THE
BEGINNING
OF TIME TO
THE DAY OF
PURIFICATION

ホピ物語
THE HOPI STORY

ホピ物語とは

"ホピ族の指導者が晩年に語った聖なる物語と予言。「太陽一族のダン・カチョンバ (1875-1972) が晩年に語り残したホピの人々の間に伝わる教えとこうなるまでの話とそしてこれから起こることの話」(本文より)

2014 SUN
2.23

13:00 ~ 16:00

ところ：自然食品の店 まほろば本店 地下洞『無限心』

札幌市西区西野5条3丁目1-1

定員：20名

参加費：お志 (サポート金)

「売物にしてはならない」というダン・カチョンバの言葉に従い価格は設けません。皆さまの心の響きに応じて、お志をお願いします。

ご予約：まほろば本店 tel:011-665-6624

※地下が寒いので暖かい
服装でおいで下さい。
座布団などご持参いただ
いてもけっこうです。

朗読する人

わこ (大井わかこ) 札幌在住。

語り部、長老、シャーマンなど様々な方の通訳をしてきました。それはまるで、思いやメッセージにチャンネルを合わせて受けとり、聞く人に真っすぐ手渡すこと。伝え繋ぐ事が私の役割だと感じています。

- 08 米国横断ピースウォーク (インディアン団体 AIM 主催) で通訳・出納係
- 09&10 結城幸司氏 (アイヌ民族) とボブ・サム氏 (クリンギット族) の語り部通訳
- 10 「13人のおばあちゃん会議」アイヌ民族サポート・通訳
- 12 アシリレラさん (アイヌ民族) の物語の会「愛を生きるレラ母ちゃん 魂の声」主催
- 13 「神話と祈りの旅 北海道」(ボブ・サム氏、結城幸司氏) 主催・通訳ほか

ブログ <http://ameblo.jp/wako0505/>



今こそ先住民の 知恵に学ぶとき

『ホビ物語』朗読会に先立って

新年の思索

新年が明け、清々しい気持ちの中で、この世界の行く末を思い、望むべき真実の世の中を生み出すためにはどうすればよいのか考えてみた。

本当のところを言えば、私たちは単なる人間ではなく、ましてや人類でさえないのかもしれない。

草木と変わらぬ大いなるイノチにつながるその一部に過ぎないのではないか。

その大いなるイノチの中で、少しだけ知恵と想像力を与えられ、ある役割を持って存在しているだけの者なのだろう。

岩盤が大地を支え、植物たちが酸素を作り、動物たちが種を運び、世界をより豊かに整えるように、私たちにも大いなるイノチの一部として、担うべき役割があるのだ。

それはいったいなんだろう？



人の役割とは？

ヒトの能力は、生命全体に対してどんな働きを成しているのだろうか。まさか自然を破壊し、いのちのシステムを寸断する事が私たちの仕事ではないだろう。

人間という種族の繁栄のためだけに、もっと言えば、一企業のシェア争いや利益拡大のためだけに、自由勝手に自然を好き放題使い、あたかもそれが理想の暮らしの様に仕立てられた豪華な物品や建物に還元する事が目的なのだろうか。しかも、その理想の暮らしの影で、多くの人や生命が喘いでいるのだ。それが、私たちの社会が目指し、目標に掲げてきたことなのだろうか。それは、大いなるイノチのシステムにとって計り知れないダメージをもたらすものの他でもない。

地球の自己治癒力

その大いなるイノチのシステムは、自己治癒力を発動し始めているかのようだ。あたかも病気を治すために熱を出したり、咳や鼻水を出したりするような、熱波や大風、洪水。年々規模を拡大してきた様々な自然の猛威や現代病……。それらはヒトが自然から離れ、自然を破壊しながら生きてきたツケに他ならない。今の人類のあり方は、生態システムを狂わすウイルスのようなものかもしれない。

どうすればいいのか？

自然なくして存在できない私たちは、その自然本来の仕組みに逆らっては生きていけないのに、そんな事すら誰も皆忘れ去ってしまっているかのようだ。

もちろん、私自身もそうだ。

どうすればいい。どうすれば、自然と共に生きられる？

どうすれば、私たちはもう一度母なる自然の懷に戻る事ができるのだろうか。

どうすればヒトはもう一度自然とのつながりを取り戻す事ができるのだろうか・・・。

ふとした閃き

そんな事をつらつら考えていたら、ふと、「先住民たちの知恵を学ぶこと・・・」そんな想いが閃いた。この混迷の世界を立て直すには、何千年も自然と共に生きてきた彼らの生き方の中にヒントがあり、それが現代に生きる私たちを救う一縷の望みになるかもしれない、大げさにも思ったのだ。

自然界のワンネス

そういえば私自身、大きく人生の方向転換をした二十代の終わり頃、アイヌやアメリカ先住民の書物に随分影響されたように思う。

特に惹かれたのは、多くの先住民族に共通する「自然界のあらゆるものが、何一つ欠かせない大切なものとして、互いにつながりあい、補い合っこの世界が成り立っている」というワンネスのあり方だった。彼らは鍋も釜も、木も熊も、虫けらも全てを神聖な存在として敬い、過剰な殺生や欲を慎み、けっして母なる自然を傷つけたり汚したりしないよう暮らしてきたのだ。

決定的な違い

この思想と生き方こそ、現代に生きる私たちとの決定的な違いである。

小さい頃から人との競争や差別化を叩き込ま

れ、よりよく生きるためには人よりも多くのお金を稼ぐことが善だと信じ込まされてきた私たちにとって、それを真に理解し、生活に活かすことは至難の技であろう。とはいえ、大切なのは、まずそこに気づく事ではなからうか。

未来を開く鍵

確かに、先住民の全てが正しいわけではないだろう。それは私たちとて同じこと。

しかし、彼らが主に口伝で受け継いできた神話や語りには、間違いなく悠久の時を自然と共に調和して暮らしてきた彼らの哲学—それは自然と共に生きるための知恵でもある—が、一貫して流れているのだ。それこそが、今の私たちにとって最も必要とされる「未来を開く鍵」となるのではないか。

それらは知識として知るだけでは不十分だ。本当の“知恵”としてこれからの世界に活かしてゆく必要があるだろう。その知恵は、心で感じ、体験する事によって育まれる。



現代の語り部

そんな折、来る2月23日に『ホビ物語』朗読会が開催される運びとなった。主催の“わこ”は、天性の話す才能に加え、まるで長老が乗り移ったかと思えるほどの感性を備えた、現代の語り部である。

ほんの数十年、数百年で自然を破壊しつつくそうとしている私たちに、数千年来自然と共に平和と調和を保ってきた人々の、その貴重な教えを体で味わい、魂で聞く事のできるまたとない機会かと思う。

今を生きるヒント

今こそ、ダン長老の哀しくも力強いその声に、ぜひ耳を傾け、大切な何かを感じ取っていただければ幸いである。命懸けで先祖伝来の生き方を守り通した彼の言葉の中にこそ、私たちが今を生きるヒント、人間の本当の役割は何か？ その答えが垣間見えることだろう。

(写真・文 / 編集部 島田 浩)

2011年3月17日に、ホピ族の精神的指導者キクモングイのポジションにあたる方から出された、日本そして世界へのメッセージです。(web サイトより転載)

ホピは
日本と母なる地球のバランスを回復するための
祈りへの参加を求める。

ホピは今、
バランスを失ったこの私たちの世界で危機に直面
した、日本の人々のために、
そして世界の人々のために祈っている。

われわれはみな、
いま母なる地球の大きな変化の時のなかにおり、
今起きていることはすでにわれわれのエルダーに
よって以前から予言されていた。

われわれの予言も、われわれの儀式も、
地球のわれわれの聖なる大地が泣いていることを
伝えている。

そしてわれわれの子供たちは、
彼らの未来のためにホピがバランスを回復してく
れることを望んでいる。

われわれのエルダーたちは、
この幾多の変化のなかをいかに通り抜けるかにつ
いて、導きを与えてくれていた。

人類は今すべてのいのちが従うことになる
細い道を選びつつあり、われわれはいつかこの日
が来ることを知っていた。

ホピとして、われわれは、
あなたがわれわれの仲間に加わり、母なる地球と
すべてのいのちのバランスをとるための祈りの輪
に加わることを求める。

われわれは、
たくさんの祈りをとおして多くの良きハートと共
に祈ることで、
われわれのエルダーたちが言っていたように、
この間に起きた出来事の衝撃を軽減することが出
来ると信じている。

ドラマや世界の人々と共に、
日本と地球とすべてのいのちのために癒しを送る
ための祈りに、
われわれはホピとして加わる。

この変化の時にあって、
われわれは世界のすべての人々に、
よりバランスのとれた生き方に戻ることを求める。

ホピは言う。

われわれがこの変化の時を通り抜けていけるため
の道はあると。
それは、地球を敬い、
そのすべてのいのちを敬い、
母なる地球の上を優しく歩くことだと。

われわれのハートを未来に繋がるこの細い道の心
とひとつにもう一度つなぎ直すことだと。

植物を庭で育て、
そこに水を与えることで、聖なる命を敬い、
われわれの子供たちの未来の世代のすべてのいの
ちのために、
あなた方のハートを、
みな之母なる大地を讃えるホピのハートと繋ぎあ
わせよう。

カワク・ワ ロロマニ
(ありがとう。未来に良きことが起こりますように)

リー・ウェイン・ロアマイエステワ
キクモングイ シュンゴパヴィ村チーフ

Lee Wayne Loamayestewa
Kikmongwi, Chief of Shungopavi Village
traditionalhopi@gmail.com

(翻訳・北山耕平)